

上士幌型脱炭素住宅認定基準

令和5年4月1日 制定

(趣旨)

町民の住生活環境の向上と脱炭素社会の実現に資することを目的に、上士幌町の地域特性に配慮するとともに、断熱性能および省エネルギー性能等の向上並びに再生可能エネルギーシステムの導入を図る住宅の普及を促進するため、上士幌型脱炭素住宅の認定基準を次のとおり定める。

(基準)

1. 戸建住宅

項目	細目	基準	詳細
耐久性	耐震等級	等級2以上	住宅の品質確保の促進等に関する法律（平成11年法律第81号）に基づく住宅性能表示制度における等級（以下「住宅性能等級」という。）
	劣化対策等級	等級3以上	住宅性能等級
耐用性	間取りの可変性確保	推奨	生活様式や世帯の変化等に対して間取りの変更等が容易に行えるよう配慮すること
維持管理性	維持管理対策等級	等級3以上	住宅性能等級
高齢社会対応	全ての住まい手が安心して生活できる措置	推奨	部屋の配置や段差の解消、手すりの設置、安全に利用できる階段を施すこと
健康快適性	ホルムアルデヒド発散等級	等級3以上	住宅性能等級
	必要換気量・適切換気経路の確保	必須	化学物質や臭気、水蒸気などの排出、室内空気汚染物質の濃度抑制を図る換気システムとすること
	中央暖房	推奨	セントラルヒーティングとする等、一般居室以外の部分も含めて建物全体の温度を保つ暖房とすること

	防暑計画	推奨	日射の遮蔽や通風の確保など、夏季の防暑に配慮すること
自然災害への対応	無暖房でも一定室温を確保	推奨	在宅避難が可能となるよう、冬季に無暖房でも一定の室内温度を確保できるよう計画すること
省エネルギー・環境負荷低減	外皮平均熱貫流率	0.34W/(m ² ・K)以下	建築物エネルギー消費性能基準等を定める省令における算出方法等に係る事項(平成28年国土交通省告示第265号)第2の1(1)に定める計算方法(以下「外皮平均熱貫流率計算方法」という。)による
	相当隙間面積	1.0 cm ² /m ² 以下(実測値)	一般財団法人建築環境・省エネルギー機構が認めた気密測定技能者が、「JIS A 2201:2003 送風機による住宅等の気密性能試験法」または、同財団の定める住宅の機密性能試験マニュアルにより測定する場合(以下「標準的な試験方法」という。)による
	一次エネルギー消費量等級	等級6以上	エネルギー消費量の少ない暖房、給湯、照明、換気等の建築設備を使用し、住宅性能等級を達成すること
	再生可能エネルギーシステムの導入	必須	再生可能エネルギーを加えて、基準一次エネルギー消費量から75%以上の一次エネルギー消費量を削減すること
雪処理	敷地内の雪処理計画	推奨	敷地内に適切な雪の堆積スペースを確保するとともに、雪処理のための労力やエネルギーが少なくなるよう配慮すること

美しいまちなみ	外壁のセットバック	道路境界との離隔 1.0m以上	まちなみ形成や雪処理に活かせる空地を確保するため、外壁から道路境界までの距離を確保すること
	まちなみとの調和・景観への配慮	推奨	周辺と調和する色調や素材感、敷地内の緑化に配慮すること
地域資源の活用	道産木材、地場材料の活用	推奨	豊かな森林資源を維持するとともに、地域の関連産業の活性化につながるよう配慮すること

2. 集合住宅

項目	細目	基準	詳細
耐久性	耐震等級	等級2以上	住宅性能等級
	劣化対策等級	等級3以上	住宅性能等級
維持管理性	維持管理対策等級	等級3以上	住宅性能等級
高齢社会対応	全ての住まい手が安心して生活できる措置	推奨	部屋の配置や段差の解消、手すりの設置、安全に利用できる階段を施すこと
健康快適性	ホルムアルデヒド発散等級	等級3以上	住宅性能等級
	必要換気量・適切換気経路の確保	必須	化学物質や臭気、水蒸気などの排出、室内空気汚染物質の濃度抑制を図る換気システムとすること
	中央暖房	推奨	住戸毎のセントラルヒーティングとする等、一般居室以外の部分も含めて住戸全体の温度を保つ暖房とすること
	防暑計画	推奨	日射の遮蔽や通風の確保など、夏季の防暑に配慮すること
自然災害への対応	無暖房でも一定室温を確保	推奨	在宅避難が可能となるよう、冬季に無暖房でも一定の室内温度を確保できるよう計画すること
省エネルギー・環境負荷低減	外皮平均熱貫流率	住戸単位で 0.34W/(m ² ・K) 以下	外皮平均熱貫流率計算方法による
	相当隙間面積	住戸単位で 1.0 cm ² /m ² 以下 (実測値)	標準的な試験方法による
	一次エネルギー消費量等級	等級6以上	エネルギー消費量の少ない暖房、給湯、照明、換気等の建築設備を使用し、基準住宅性能等級を達成すること
	再生可能エネルギーシステムの導入	推奨	再生可能エネルギーを加えて、住戸毎の基準一次エネルギー消

			費量から 75%以上の一次エネルギー消費量を削減すること
雪処理	敷地内の雪処理計画	推奨	敷地内に適切な雪の堆積スペースを確保するとともに、雪処理のための労力やエネルギーが少なくなるよう配慮すること
美しいまちなみ	外壁のセットバック	道路境界との 離隔 1.0m以上	まちなみ形成や雪処理に活かせる空地を確保するため、外壁から道路境界までの距離を確保すること
	まちなみとの調和・景観への配慮	推奨	周辺と調和する色調や素材感、敷地内の緑化に配慮すること
地域資源の活用	道産木材、地場材料の活用	推奨	豊かな森林資源を維持するとともに、地域の関連産業の活性化につながるよう配慮すること